

米国及び英国の共同臨界前核実験に抗議する決議

核兵器の廃絶は、最初の被爆国である日本をはじめ、今や全世界の人類共通の願いとなっている。

しかしながら、米国は、2月23日にネバダ州の地下核実験場において、通算22回目となる臨界前核実験を、英国と共同で実施した。

平和都市宣言を行った札幌市において、本市議会は、これまでも核保有国が臨界前核実験及び地下核実験を実施した際に抗議の決議を行ってきた。特に米国政府に対しては、幾度となく臨界前核実験の停止を求める決議を行い、これを送付しているにもかかわらず、繰り返し核実験が強行されていることは極めて遺憾である。

よって、本市議会は、米国政府及び英国政府に対し、臨界前核実験の強行にあらためて抗議するとともに、核兵器廃絶と核実験中止を求める国際世論を真摯に受け止め、今後、いかなる核実験も恒久的に行わないよう強く求めるものである。

以上につき、決議する。

平成18年(2006年)3月1日

札幌市議会

(提出先) アメリカ合衆国ジョージ・ウォーカー・ブッシュ大統領

グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国トニー・ブレア
首相

(提出者) 全議員